

物が用いられていることから、義歯にメチルメルカプタンが一定濃度以上吸着することにより、リラインレジンの重合を阻害することが考えられた。

結論：使用中義歯床の深部にメチルメルカプタンが侵入している場合には、リラインレジンの重合阻害がおこり義歯床からの剥離の原因となる可能性が示唆された。

### 演題3. CBCT 導入から半年を経過して —マルチスライス CT と比較した CBCT の有用性と今後の展望—

○高橋 徳明, 東海林 理, 泉沢 充,  
佐藤 仁, 星野 正行, 小豆嶋正典

岩手医科大学歯学部歯科放射線学講座

岩手医大附属歯科医療センター内の歯科放射線科外来に2008年4月から導入されたコンベームCT(以下CBCT: 3D Accuitomo F17)は、学内の様々な診療科や学外からも利用が増加し、9ヶ月でおよそ450件の検査が行われた。450件のうち、学内が全体の3/4を占め1/4が学外からの依頼であった。症例別にみると最も多く依頼があったのは埋伏歯の下顎管あるいは上顎洞との関係精査(27.3%)、ついで多く依頼されたのはインプラントの術前精査(23.6%)であった。加えて最近ではインプラント以外の保険外症例(歯根破折, 埋伏歯, 歯周疾患による骨吸収, 病巣の原因歯根の精査等)でも依頼が増加している。

CBCTの一般的な特徴としてはマルチスライスCTと比較し、空間分解能が高く撮影範囲の絞込みが可能であり、距離測定精度が高い等の利点がある反面、軟組織のコントラストに乏しく、造影剤が使用できない、撮影時間が長い等の欠点がある。また、アーチファクトに大きな差はなく、被曝線量については撮影範囲によって変化する。それらのCBCTの特徴からCBCTが有効であった症例を供覧した。

症例1は下顎埋伏智歯の下顎管近接例で、下顎管上縁の皮質骨吸収が歯列直交断層像にて確認された。症例2はインプラント術前診断症例で、中空円柱状のステントに平行な歯列直交断層像上にて下顎管上縁までの距離計測ができ

た。症例3は下顎嚢胞性病変の症例で病変と下顎管、隣接する歯、埋伏歯との関係が明らかであった。顎骨吸収を認めた悪性腫瘍の症例、デンタルエックス線写真で口蓋根の描出が困難だった上顎第一小臼歯の根尖性歯周炎症例、歯根破折の症例のいずれでも病変の描出、原因精査に有効であった。

埋伏歯の精査、インプラント術前診断といった口腔外科関連以外でもCBCTによる診断、精査が有効な症例があり、今後の利用を期待したい。

### 演題4. 遠野市における口腔周囲筋エクササイズ の取り組みと実施効果について

○鎌田 仁, 深澤 範子

遠野市国民健康保険宮守歯科診療所

目的: Mパタカラは、口腔周囲の表情筋を鍛え摂食機能障害の改善を目的とする一般医療機器である。遠野市では国保宮守歯科診療所が実施主体となり、平成19年よりこのMパタカラを用いた口腔周囲筋エクササイズ事業に取り組んでいる。これまでの事業において、被験者の多くに種々の健康効果が認められているが、今回我々は養護老人施設に入所する高齢者に対しての効果を検証した。

対象と方法: 対象は遠野市養護老人ホーム長寿の森「吉祥園」に入所する高齢者17名(第1期: H19年7月から7名, 第2期: H20年3月から10名)とした。口腔周囲筋のエクササイズには大人用Mパタカラ(株)パタカラ, 東京)を用いた。可能な限り1日3回, 1回あたり3分間のエクササイズを実施した。診査項目は、初回および評価診査時に口腔内診査, 唾液検査, R S S T, オーラルディアドコキネシスを行い、実施後1ヶ月毎に、口唇閉鎖力測定, 顔貌・全身・口腔内写真の撮影, NMスケール, N-A D Lの記録を行った。また、被験者のA D L評価, 介護記録, エクササイズの実施状況を施設職員が毎日記録した。

結果: エクササイズを実施後、被験者に種々の身体および精神神経症状の改善が認められ、H20年8月に被験者17名中10名の要介護度仮判定調査を第3者機関に依頼した結果、10名

中7名に要介護度の軽減が認められた。

考察・結論：口腔周囲の表情筋群に対してMパタカラを用いたエクササイズを行うと、右側前頭葉の脳血流量が増加することが秋広らの実験により確認されている。今回検証した高齢者にも種々の症状の改善が認められ、口腔周囲筋エクササイズは、摂食機能障害のみにとどまらず他の疾患による脳機能障害の軽減にも効果があると推察される。また、今回の結果は今後益々増加するであろう高齢者の介護および医療費増加等の問題に対し、介護予防の観点からも有用性が見込まれる内容であり、Mパタカラを用いた口腔筋機能療法は歯科界の新たな貢献分野になり得ると考えられる。